

京都 ER ポケットブック

洛和会音羽病院救命救急センター・京都 ER 編 宮前伸啓 責任編集 荒 隆紀 執筆

「山椒は小粒でもぴりりと辛い」は、小さくても才能や力量が優れていて侮れないことを例えることわざです。『京都 ER ポケットブック』はまさにそのものです。

ポケットに入る大きさにもかかわらず、主訴別アプローチ、診断の参考になる clinical prediction rule に加えて、ABC-VOMIT アプローチ、問診の大動脈 AORTA や TUNA FISH など数多くの mnemonic（この mnemonic が何を意味するのか気になる方は、ぜひ手に取ってみてください）など膨大な内容が収まっています。各情報に参考文献も載っていて、ただのマニュアル本でもありません。しかも、カラー、図表が多く、読みやすい！

主訴別アプローチ編では、ER での時間の流れを意識した構成になっており、救急搬送前のチェックポイント、診療開始後すぐにやるべきことがリストとしてまとめられ、非常に実践的です。頭痛、けいれんなどの項目では、原因疾患の頻度をグラフで示していて、医師だけでなく、看護師や救急隊にも役立つと思われます。また、研修医が普段疑問に思うようなことを Q & A として取り上げています。例えば、「上部消化管出血の緊急内視鏡適応って何ですか？」といった質問で

は、Glasgow-Blatchford bleeding Score を用いて、短時間で理解できるようになっています。

『京都 ER ポケットブック』が、他の救急外来の本と異なるのは、著者が救急医ではなく、家庭医の荒隆紀先生だということです。著者があとがきで述べていますが、救急医では持ちえない視点から、救急外来診療で生き残るために作られた本です。この視点により、研修医や救急外来診療にかかわらざるを得ない他科の先生方、看護師、救急隊員にとって、より利用しやすくなっているのではないかと思います。もちろん救急医が読んでも、実践的 EBM 活用法や救急外来で知っておくべき法律など、あらためて勉強させられる内容ばかりです。

こんな本が、自分の研修医時代にあったらよかったのにと思わされた 1 冊でした。研修医、救急医だけでなく、救急外来にかかわるすべての医療者にお薦めしたいと思います。

新潟市民病院救急科医長
佐藤信宏

A6・頁 416 2018 年 06 月
定価：本体 3,500 円＋税
[ISBN978-4-260-03454-8] 医学書院刊